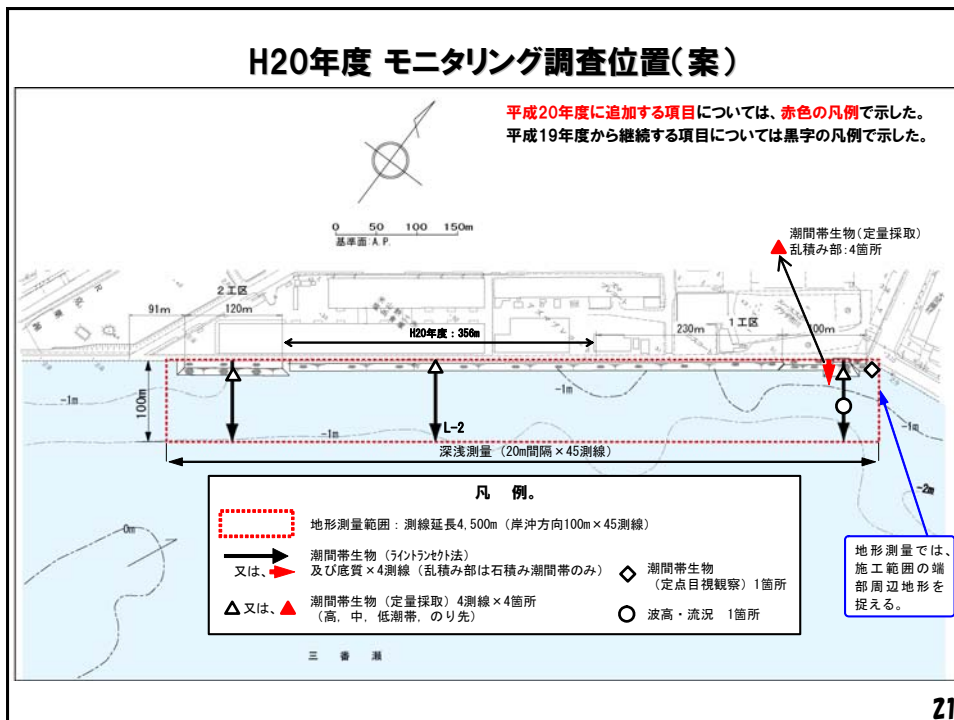


(2) モニタリング調査の計画(案)

項目	平成19年度	平成20年度
地形	・施工延長に合わせて測量範囲を拡大。 ・石積護岸端部脇の地形測量については、回数を増やす。年4回+イベント(台風等の高波)後	現状通り
底質	3測線、10mピッチ採泥、粒度分析	現状通り (但し、検証基準は施工箇所毎に検討)
生物	・ライトランゼト法: 1工区、2工区、対照測線L-2、塩浜1丁目緊急補修部の4測線 ・採取分析: 1測線/4箇所×1丁目緊急補修部を除く3測線	・乱積部の潮間帯に、ライトランゼト法測線、及び定量採取4検体(高・中・低潮帯、のり先)を追加 ・1丁目緊急補修部は終了
波浪・流況	・最大60日間連続観測を年2回実施	・30~60日間連続観測を年2回実施
青潮	DO計によるDO計測。1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面	現状通り
緑化	—	・護岸検討委員会で植栽の位置、植栽種の選定等を検討 ・追跡調査 (植物種、生育密度、生育範囲等)
水鳥	—	自然環境調査結果等を用いて施工前後の比較を行う。

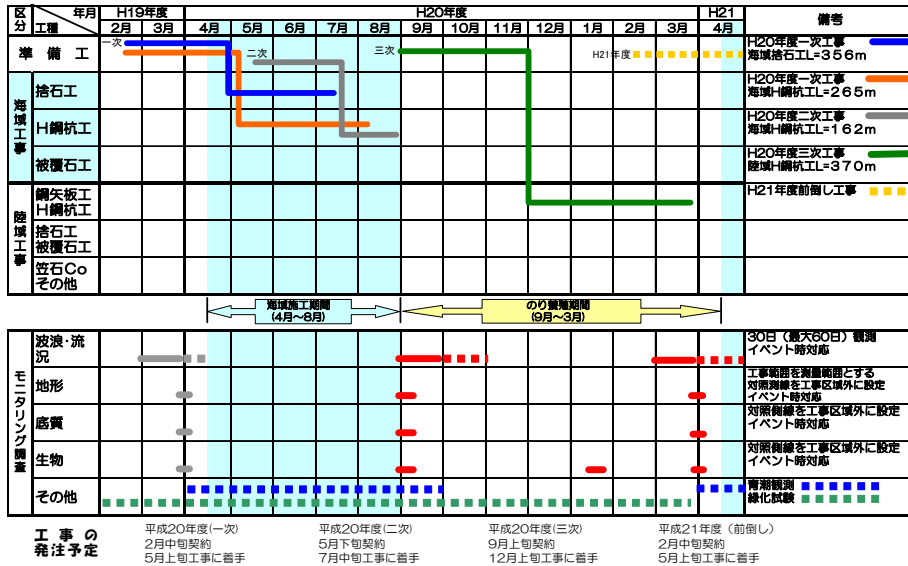
20

H20年度 モニタリング調査位置(案)



21

(3) 実施工程(案) (例)第1案のケース

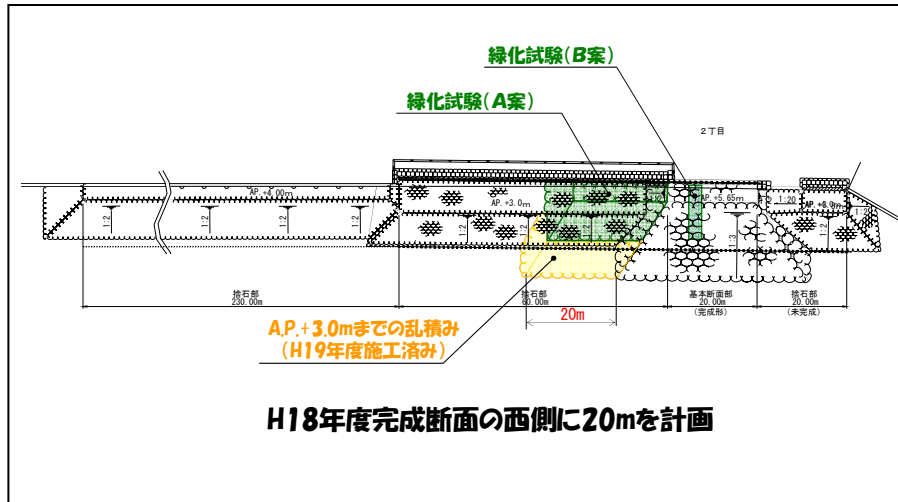


(4) 試験の計画

被覆石の緑化に係る試験案

- ① 平成20年度事業の中で、緑化として使用する植物の種類を特定する。
- ② 1年間の暴露試験を通じて、乾燥や塩害に強い海浜植物の選定を行う。
- ③ 試験は、市民参加型の試験として実施できるように試験方法を工夫する。
- ④ A案B案から選択し、詳細内容は今後検討する。

○ 計画平面図



○ 被覆の緑化試験(A案)：石の隙間の利用による暴露試験

